

起業アドバイザー便り

世も企業も人に依りて興る

昔からの私の思いの一つに「起業家の輩出が社会を革新する」というのがあります。新聞記事により知るところですが、3月16日にリクルートの創業者である江副浩正氏のお別れの会（享年76）が催され約1,200人の同社OB現役社員が参加したとのことでした。同氏は東大在学中に「大学新聞広告社」を創業し、学生起業家のはしりと云われてきました。こんにちまで同社の社員について私が印象深く記憶していることで特筆すべきことは、同社が「社員皆（かい）経営者主義」を貫いて来たことです。その結果そこで育った社員の多くは業務上での収支責任を負わされて、20代でB/S（貸借対照表）、PL（損益計算書）を意識した業務遂行に徹して、数字に強い社員に成り得ていることでした。

また中途退社は「卒業」と称せられ、30代で転職や起業することは当然視されている企業風土で、リクルート出身者の通称「元リク」の方で起業した人は、私の知人で求人広告業の方もおられますが皆さん大変優秀な方ばかりと感じておりました。

一方転職した方では楽天、ソフトバンクその他現在わが国の数多くのベンチャーや成長企業と云われる会社の、重要ポジションを担っているとの話しをよく聞きます。

これらをもって一説にリクルート社を「日本最強のビジネススクール」とか、「人材輩出企業」などと称されている所以（ゆえん）もよく理解できます。

私は新聞記事を読んで書棚よりかつて愛読した同氏の「リクルートのDNA」（2007年4月15日三版）の「まえがき」を再読しました。その文章の中で、江副浩正氏はリクルートや子会社のコスモスOBが社長を務める上場会社は20社近くにのぼる。なぜそのような成果を成し得ているかといえ、リクルートでは「社員皆（かい）経営者主義」を揚げ会社の中に会社（PC＝プロフィットセンター）を作り、そのPC長を会社の社長としてきたからであろうと答えることにしているとあります。

このように同氏を含めニュービジネスやベンチャーによって生まれた企業が現在200万人ほどの雇用を創出していると云われています。卓越した人物が起業し、時代を先取りした事業を次々に創業して発展し、経済を活性化させ日本の経済を繁栄させる「善の循環」における社会的存在を確たるものにしていくのです。

仮説になりますが、江副浩正氏が起業家として誕生していなければ、こんにち一体どのようなビジネス社会になっているのだらうと思います。云えますことは、多分、経済も株式市場も今よりかなり脆弱なものになっていたのだらうと想像しています。私が10数年来、このことを踏まえ起業家精神をもった若い人が起業をし、世も企業も「人に依りて興る」ことを意識して、アントプレナーを生み育てることこそがなにより大切なことと、微力ながら諸々の活動して来たことが、けして無意味ではなかったと思う今日この頃です。